

2025年度（令和7年度） 町田市立南中学校 技術科 3年年 年間指導計画及び評価基準

使用教科書：技術・家庭科（東京書籍出版） 年間授業時数：17.5 時間

月	単元・章・教材名	時数	学習目標	学習活動	評価規準		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	4編1章 情報の技術 1身の回りの情報技術	1	- 生活や社会，産業のさまざまな場面でコンピュータなどの情報の技術がどのように利用されているかが分かる。 - コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアの違いとその特徴が理解できる。	- 家や学校，工場などの場면을例示して，コンピュータなどの情報の技術が利用されていることを確認する。 - 身の回りにあるコンピュータの種類や形状，機能などをまとめさせる。 - アナログ情報とデジタル情報の違いについて考えさせる。 - 情報の技術によって実現できることを挙げさせる。 - 小学校では，どのようなプログラミング体験を行ったか思い出させる。 授業で映像や資料の提示のためにICTを活用している。	情報の表現や記録ができる仕組みを理解している。		
5	4編1章 情報の技術 3情報のデジタル化	1	- コンピュータは全ての情報を数値化して処理していることを理解する。 - 画像をデジタル化する方法やデータ量との関係がわかる。	- 文字情報のデジタル化を例にデジタル化の方法を確認させる。 - 画像のデジタル化を例に，デジタル化とデータ量について確認させる。	情報のデジタル化の仕組み，デジタル化の方法とデータ量との関係を理解している。		
6	4編1章 情報の技術 4情報通信ネットワークの仕組み	2	- 情報通信ネットワークの仕組みについてまとめる。 - 情報通信ネットワークを使って，情報をやりとりする仕組みについて知る。	- 家庭や学校におけるLANを例に，情報通信ネットワークを構成するために必要な機器や接続できる情報機器について説明する。 - 電子メールやSNSなど身近な例を取り上げ，情報通信ネットワークを使って，情報をやりとりする仕組みについて説明する	- 情報通信ネットワークの構成について理解している。 - 情報通信ネットワーク上での情報を利用する仕組みについて理解している。		
7	実習 キーボードを使ったタイピング	2	- キーボードの配列を覚え、時間内に一定量の文字入力ができる。 - キーに合わせて、適切な指でタイピングができる。	文字入力ソフト「ワード」を使っでのタイピング練習。	時間内に一定量の文字入力ができる。		

月	単元・章・教材名	時数	学習目標	学習活動	評価規準		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
9	1編 材料と加工の技術 2材料の特性と加工方法 技術のとびら金属の特性	1	金属の特性を理解する。	黒板への板書と動画を見ながら金属への理解を深める。	金属の特性を理解しているか		
10	「真鍮キーホルダー」製作 ・デザイン	1.5	金属の特性を考えながら「真鍮キーホルダー」のデザインをする。	ワークに自分が作りたい金ホルダーのデザインを金属の特性を考えながら記入する。	金属の特性を理解しているか	金属の特性を考えながらデザインができているか	2年時の作業の反省を活かしながら作業できているか。

11 ・ 12	「真鍮キーホルダー」製作 ・切断 ・断面のやすり掛け	3	・金属の特性を考えながら、真鍮板を切断し、断面をやすり掛けする。	・金属の特性を考えながら、「弓のこ」「電動のこぎり」「鉄ヤスリ」を使用し真鍮板を切断し、断面をやすり掛けする。	・金属の特性を理解しデザインに沿った形に切断できているか	・金属の特性を理解し、道具を選ぶことが出来るか。 ・時間を見ながら活動することが出来るか。	
	「真鍮キーホルダー」製作 ・表面の研磨	2	・金属の特性を考えながら、真鍮板の表面を鏡面仕上げ出来るようになる。	・金属の特性を考えながら、「耐水ペーパー」「ピカール」を使用し真鍮板の表面を鏡面仕上げする。	・金属の特性を理解し作業に取り組めているか	・自分の作品の状況に合わせて適切なヤスリを選ぶことが出来るか。	・鏡面に仕上げられるようにこだわりを持って作業に取り組んでいるか。

月	単元・章・教材名	時数	学習目標	学習活動	評価規準		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 ・ 2 ・ 3	4 編情報の技術 3 章計測・制御のプログラミングによる問題解決 1 計測・制御システムとは	2	- 身の回りにある計測・制御システムを理解できる。 - 計測・制御システムにおけるプログラムの役割がわかる。 - 計測・制御システムの基本的な構成と情報の流れがわかる。	- 計測・制御システムには、コンピュータのほかに、センサ，仕事を行う部分，インタフェースが必要なことを知らせる。 - 自動運転技術などの計測・制御システムを例に，情報処理の手順を考えさせる。 ・社会からの要求，使用者の安全，利便性などの視点から実現したい自動化，システム化を考えさせる。	・計測・制御システムの基本的な構成を理解している。	・「技術の見方・考え方」を働かせて，問題を発見し，自分なりの課題を設定する力を身に付けている。	
	4 編情報の技術 3 章計測・制御のプログラミングによる問題解決 4 計測・制御システムのプログラミング制作	2	- 計測・制御のプログラミングによって解決できる問題を見つけられる。 - 発見した問題を解決するための課題を設定できる。	・副教材「アクティくん」を使用しプログラミングによる問題解決をしていく。	・計測・制御システムにおけるプログラムの役割を理解している。	・「技術の見方・考え方」を働かせて，問題を発見し，自分なりの課題を設定する力を身に付けている。	・班員と協力しながら問題解決のプログラミングをすることが出来るか。